目次

序論　戦後歴史学の起源とその忘却……磯前順一　1
——歴史のポイエーシスをめぐって——
一　戦後歴史学の「終焉」とマルクス主義歴史学　1
二　マルクス主義と歴史学　12
三　本書の概要　44

I　国体の起源とマルクス主義歴史学

転機としての『日本歴史教程』……田中聡　61
——早川二郎のアジア的共同体論——
はじめに　61
一　『日本歴史教程』のインパクト　63
二　古代社会のヴィジョンをめぐる葛藤　71

三　アジア的共同体論における「現実的背後」　80
おわりに　84

歴史過程としての先史……内田　好昭　91
——マルクス主義歴史学と考古学的文化史——
はじめに　91
一　先住民の日本先史　94
二　先史日本人——国家の相対化——　97
三　労働要具——生産力の発展——　100
四　文化——時間の流れ・空間の広がり——　103
五　原始農業——生産から生活へ——　107
六　階級——共同社会の崩壊過程——　111
七　歴史過程としての先史　114
おわりに　118

植民地期朝鮮におけるマルクス主義史学……李　成市　129
——白南雲『朝鮮社会経済史』を中心に——
はじめに　129
一　「原始氏族共産体及び奴隷経済史」と檀君神話　132

二　実践的課題としての特殊史観批判　138
三　戦略としてのマルクス主義史学　143
おわりに　149

Ⅱ　マルクス主義と宗教・文化論

マルクス主義と宗教起源論……林　淳　157
――『中外日報』の座談会を中心に――
はじめに　157
一　ソヴィエトの宗教論　158
二　日本マルクス主義の宗教論　165
三　マルキストによる宗教起源論の受容　176

マルクス主義と日本思想史研究……赤澤　史朗　193
――『歴史科学』『唯物論研究』を中心に――
はじめに　193
一　日本宗教史研究　198
二　明治思想史文化史研究　208
三　儒学・国学研究　214

おわりに　220

Ⅲ　文化論的マルクス主義と歴史意識

歴史のアレゴリー化……ハリー・ハルトゥーニアン　227
——マルクス主義、羽仁五郎、そして現在からの要請——
一　アレゴリー、事実、そして現在という時　227
二　「たたかう歴史学」　238
三　現在のための過去／現実のためのアレゴリー　243

否定性と歴史主義の時間……酒井　直樹　261
——一九三〇年代の実践哲学とアジア・太平洋戦争期の家永・丸山思想史——
はじめに——文明論的なカテゴリーと東洋思想——　261
一　多民族帝国における思想史　264
二　一九三〇年代のパラダイム、そして、時代区分と文明論的地図作成法という物語的形象化　267
三　比較による時代区分と歴史における実践　269
四　歴史の三つの審級と事実　273
五　歴史的主体の事実性——回心と革命——　278

六　世界図式と非連続性　284
七　否定と社会的変容の論理　291
八　封建的世界像の解体と全体主義的主権　293
結び　300

暗い時代に……磯前　順一　309
――石母田正『中世的世界の形成』と戦後日本の歴史学――
はじめに　309
一　ひとつの転回――哲学から歴史学へ――　311
二　石母田の歴史学構想　319
三　『中世的世界の形成』と英雄時代論　332
四　石母田正と西欧マルクス主義　347

結語　マルクス主義の歴史叙述を書き直す……ハリー・ハルトゥーニアン　363
――現在による過去の充塡――

あとがき　373